

最終試験結果の要旨

報告番号	理工研 第 499 号	氏 名	ボウ・コーザー
審査委員	主 査	木方十根	
	副 査	柴田晃宏	曾我和弘
		鷹野 敦	

最終試験結果の要旨

令和3年2月5日午後12時50分より、主査・副査4名および学内からの聴講者5名の計9名の出席のもと、ボウ・コーザー氏の論文発表（45分）および質疑応答（45分）により、学位論文の内容、および関連知識に関する最終試験を行った。論文発表は、スライドを用いて英語によって行われ、とくに本研究の学術的な位置付けや、各国の政策との関連といった本論第二章・三章について詳しく説明がなされたのち、本研究の主な内容である視覚モデル（BECKチャート）の開発からその応用、汎用性に関する試行実験に関する説明が行われ、本研究の結論が提示された。

その後、下記のとおり質疑応答が、日本語および英語で行われた。

■BECKチャートの構成について：副査A) 空間的尺度を示す縦軸の指示内容について最も広い項を“Global”とするが宇宙空間との関係をも含むと考えて良いか。発表者の回答) そのように考えることは可能である。副査B) ここでいう空間的尺度は定量的距離なのか、社会領域としての概念も含まれるのか。発表者の回答) 知識の型を議論する手順（プロトコル）としての項目立てであり、必ずしも定量的距離を示すものではない。

■BECKチャートの応用性にかんする試行実験結果について：副査C) インターネット実験における構築環境専門家の応答と、構築環境教育に一般的な関心しか持たない回答者の応答にも親和性がある部分も見受けられるが、どのように考えれば良いか。発表者の回答) 部分的には親和している部分があるが、全体を俯瞰し広範囲でみたさいの明らかな傾向の違いを重視して考察を行った。

■学際領域における成果の波及性について：聴講者D) 学際領域研究の難しさは、社会的な認知が低いため、その成果（outcome）が見えにくい点である。本研究の成果はどのように展望できるのか。発表者の回答) 具体的な成果として直ちに想定できるのは構築環境に関わる専門家に対する教育プログラムの開発支援である。BECKチャートの応用により提供される知識体系を検証し、構築環境教育として良い方向に改善することが期待できる。それによって本研究が目指す成果に繋がると考える。

学力の確認結果の要旨

以上のとおり、論文発表後の質疑応答では、多角的観点からの質問に対して、本研究の成果に基づいた一貫した回答がなされた。それにより申請者が、建築教育を含む構築環境教育という分野に関する十分な学力と、広汎な展望を備えていることが確認された。質疑応答後、主査・副査により論文本体および発表と質疑応答の結果を踏まえた協議を行い、論文、発表、および質疑応答の内容は適切であるとの結論を得た。

以上より審査委員会は、申請者が博士（工学）の学位を与えるに十分な学力を有するものとして認定した。